

## きつねものがたり

ヨセフ・ラダ さく・え うちだりさこ やく 福音館書店



ホモリ山のふもとの森ばんは、パトロールちゅうに、すばしっこい子ぎつねをつかまえました。きつねはお話を読んでもらっているうちに、人間のことばをおぼえ、字を書くこともできるようになりました。ある日、きつねは森の中でくらそうとにげだしました。でも、食べられたものは森の中では見つけれないし、えものをつかまえることもできません。それならばと、むかし話に出てくるきつねのまねをしますが、こちらもうまくいきません。



## きょうはなんのひ?

瀬田貞二 作 林明子 絵 福音館書店



あるあさ、まみこは「おかあさん、きょうはなんのひだか、してるの? しらなきゃかいたん三だんめ」と、うたってからがっこうへでかけました。おかあさんがかいたんをみても、まみこからのてがみがありました。「ケーキのはこをごらんさい」とかいてあります。ケーキのはこには「つぎはかさたてのなか」とあります。かさたてのつぎは、ほんのなか。ほんのつぎは……かいしゃにいるおとうさんのポケットのなか? このてがみ、いったいどこへつれていくのでしょうか。

## ちょっとひとやすみ①

小学生になると文字が読めるようになります。なかには、ようちえんのときにおぼえてしまった人もいられるでしょう。しかし、読書をするには、まだまだたくさん時間とれんしゅうがひつようです。自分だけで読んだとき、文字をおうのがせいっぱいで、ちっとも楽しくなかったことはありませんか? ひとりで読むことをたいへんにかんじて、本ぎらいになってしまうこともあります。そんなときは、かぞくや、まわりの人に読んでもらいましょう。耳から聞いて、ばめんをそうぞうして、はじめてわかるおもしろさもあります。いくつになっても「読んで。」と言ってみましょう。



## くまの子ウーフ

【くまの子ウーフの童話集 1】

神沢利子 作 井上洋介 絵 ポプラ社



くまの子ウーフは、いろんなことをかんがえるのが大すぎ。さかなになりたいとおもったウーフは、ふなから「つらいしゅぎょう」がいることをききます。はなしにびっくりしたウーフは、おかあさんのくびにだきついてふるえ声でいいました。「川にへんなやつがいたよ。そのさかな、したをぬいちゃったんだ! ねむるときも、目をあけてるんだって。」はなしをきいたおかあさんは、ウーフをだっこしてわらいました。

## 車のいろは空のいろ

— 白いぼうし —

あまんきみこ 作 北田卓史 絵 ポプラ社



松井さんのタクシーは、空いろでびかびかです。このタクシーにのるのは、にんげんだけではありません。きつねのきょうだい、山ねこのおいしゃさん、くまのしんし……。今日もかわったおきやくさんをのせて、松井さんのタクシーは東へ西へ。ほら、今そこを走っていきましたよ。松井さんと空いろのタクシーのおはなしは、ほかに『春のお客さん』『星のタクシー』があります。

## ごきげんなすてご

いとうひろし さく 徳間書店



「おとうとなんて、だいきらい。あたしはりっぱなすてごになって、すてきなうちにもらわれるんだ。」おさるみたいなおとうとと、おとうとばかりかわいがるおとうさんとおかあさんがいるいえをでて、すてごになったおんなのこ。すていぬ、すてねこ、すてかめ……とどんどんふえるすてごなかま。ひろってくれるひとはいるかしら? さあ、ごきげんなすてごたちのうんめいやいかに。

## こまったさんのスパゲティ

【おはなしりょうりきょうしつ 1】

寺村輝夫 作 岡本颯子 絵 あかね書房



「こまったわ。」がくちぐせの花やのこまったさんは、おりょうりが大すぎ。きょうはしごとがおやすみなので、スパゲティを作ることにしました。たのしくうたいながらスパゲティをつくりはじめたこまったさんでしたが、いつのまにかアフリカにまよいこんでしまいました。「こまったわ。ぞうやライオンがきたらどうしよう。」だけど、アフリカぞうがおしえてくれるスパゲティ・コン・ボンゴレは、とってもおいしそう。おりょうりのつくりかたもおぼえられます。